

地域一体となった七村の農地を守る取組

七村地区(曾於市)

背 景

七村地区は、曾於市の北部に位置し、集落の上段に約50haの畑、下段に約35haの水田が広がっている。約50年前に農業構造改善事業によりほ場地区は整備されているが、当時の配分が現地配分であったため、1区画の面積が狭く、田の高低差も大きいことから作業効率が低い。

また、離農や高齢化等により田畑の維持管理や耕作が困難になりつつある。

このような状況を踏まえ、平成19年に「七村の田んぼを守る会」を発足し、地区住民による農地保全の取組を始めた。平成22年に実施した営農についてのアンケート結果をもとに、水田を対象とした農作業の集約調整等について地区での話し合いを開始するとともに、集落営農組合など地区内のさまざまな組織も発足し、農地を守る活動に取り組んでいる。

活 動 内 容

① 集落営農組合の設立と取組

地域営農推進のための各種事業等を活用しながら、話し合いによりほ場マップや営農ビジョンを作成。さらに、営農組織の立ち上げに向け準備委員会を設置して検討を重ね、平成27年6月に組合員19名で七村地区集落営農組合を設立し、平成28年度に米の共同販売を開始した。

② 「七村の田んぼを守る会」の活動

用水路や農道等の管理、田の神の清掃や景観作物の植え付けなど幅広い活動を行っている。

また、景観形成で植えた菜の花を見ながら「歩こう会」を実施し、自治会住民の交流を深めている。



地区住民の手で農道を整備

③ 中山間地域等直接支払交付金を活用した取組

平成27年度から地区内の水田で本事業に取り組んでいる。平成27年度交付金では、畦塗り機を購入し、機械部会で畦塗り作業を行っている。



中山間地域等直接支払事業による畦塗り作業

④ 他団体等による農地を守る活動

七村自治会で毎年2月に開催している「何でも語る会」では、住民が何でも意見を出し合い、生活環境や農地周辺の安全、住みよい地域づくりにつなげている。

また、平成20年に結成した「ボランティア七村」は、さまざまな活動を実施。毎年12月に開催している「そば会」は、栽培から手がけたそばを参加者に振る舞っており、地区住民の楽しみの一つとなっている。



多くの地区住民が集まりそばとともに交流を楽しむ

成 果

① 農地の保全と地域農業の維持

各事業の有効活用により、農業生産環境の整備や農作業の効率化が図られた。

また、集落営農組合による米の共同販売により販売単価の向上につながった。

② 地区内外の住民との交流

景観植物の植え付けから発展した「歩こう会」やボランティア七村による「そば会」は、多くの住民が集まるイベントなり、地区住民の農業への理解や交流が図られ、地域活性化の意識が高まった。



満開の菜の花を見ながらの「歩こう会」

③ 安心して住みよい地域づくり

地域点検や何でも語る会での意見等により、やぶ払いや用水路の蓋板設置などを実施。住民が安心して暮らせる環境づくりにつながった。

今 後 の 展 望

今後高齢化が進行し、人口も減少するのは確実である。このため、ほ場の大区画化・集約化や効率的な作業受委託の体系づくりについて、みんなで話し合いを進め、集落営農組合や若手担い手を中心となった新たな地域営農を確立し、農地の高度利用による農家所得の向上と協働のむらづくりを目指していきたい。

これからも先祖代々引き継がれてきた農地を私たちが守り維持し、大区画に整備された田んぼで時期が来れば数多くのトラクターやコンバインが走り、収穫時期には黄金色の稲穂が輝いている農村の風景を次世代につないでいきたい。

地 区 情 報

構成集落

七村集落(1集落)

人口構成

(1) 総人口 320人
(65歳以上の割合 51.3%)

(2) 総世帯数 158戸
(うち農家戸数 50戸)

総土地面積:891ヘクタール

耕地面積:115ヘクタール

主要作物:水稲,甘藷

問い合わせ先

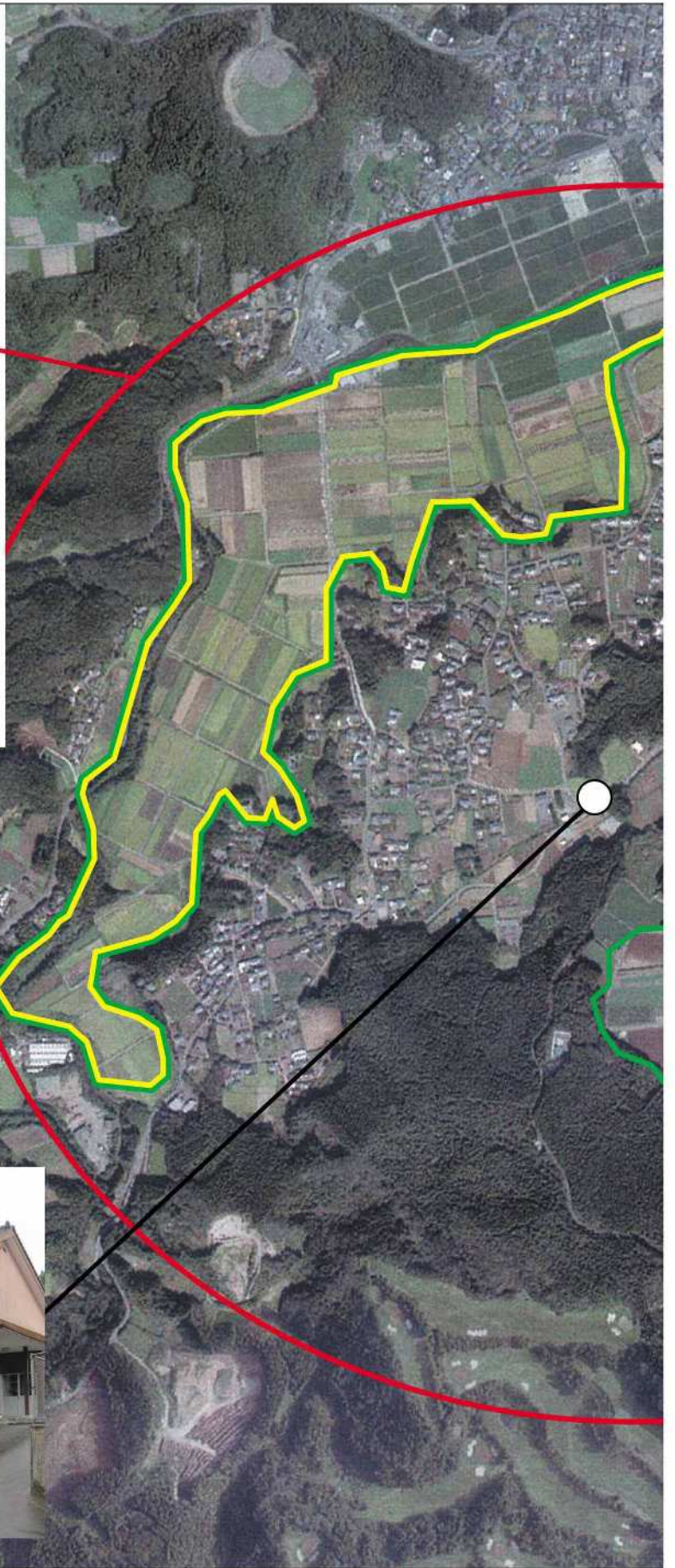
曾於市財部支所産業振興課

電話番号:0986(72)0938

大隅地域振興局農林水産部農政普及課

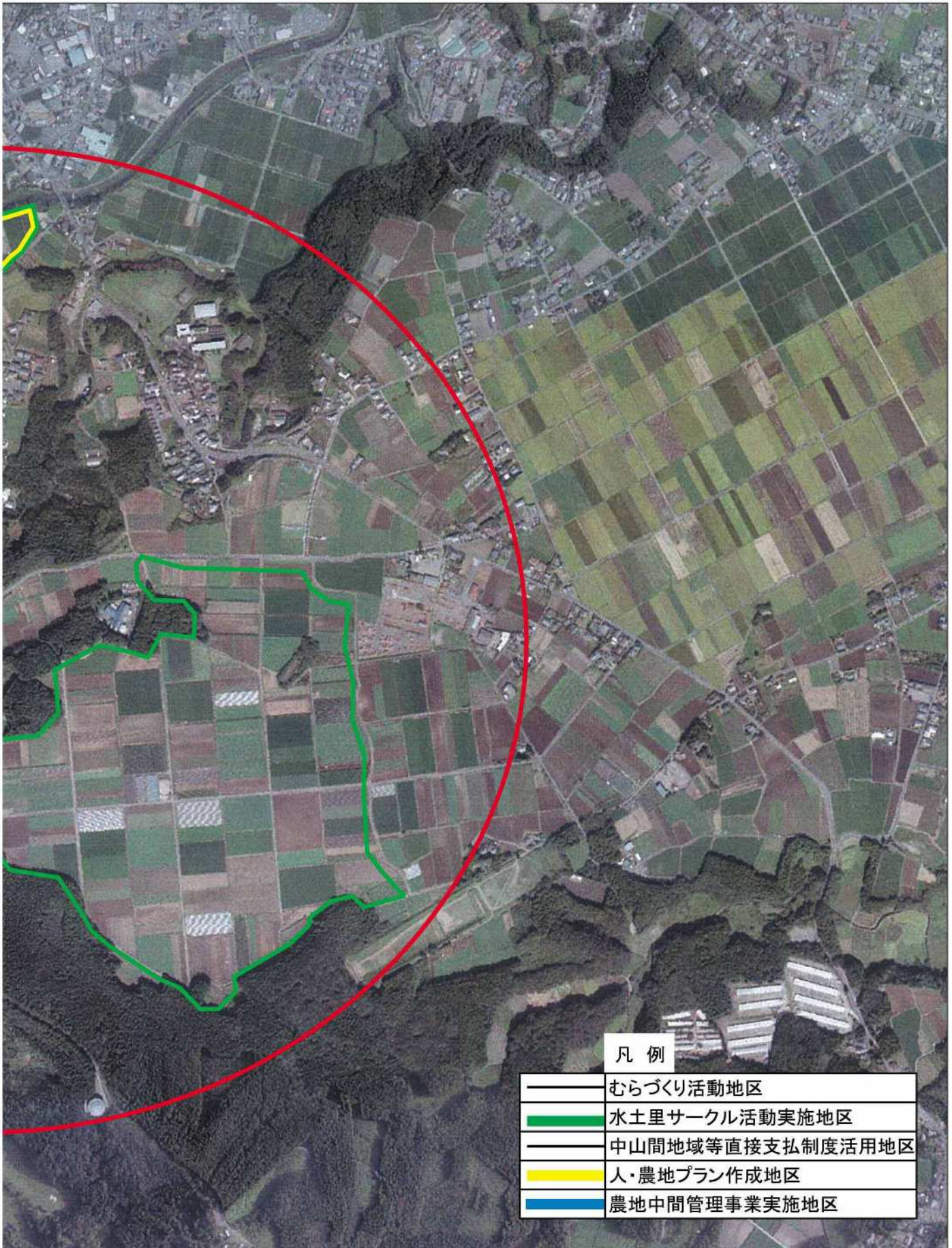
電話番号:0994(52)2139

活動マップ



七村自治公民館





地元の資源・知恵を活用した地域おこし

ひがのまち

古田地区中之町自治会（西之表市）

背 景

西之表市の東南の山間部に位置する古田地区中之町は、豊かな自然に恵まれ、多様な農産物が栽培されている。他地域同様に少子高齢化が進み、65歳以上が35%を占め、隠居した方や一人暮らしの方との交流が年々減少し、先人達のこれまでの暮らしの知恵や生活文化が継承できないのではと危惧されていた。

そこで、伝統文化の継承を図りながら、地元にある資源を有効活用し、住民同士の絆を深める機運が高まり、地域を元気にしたいと、有志約20名を中心に「古田ドリームプロジェクト」が結成され、中之町自治会と連携して活動を始めた。

活 動 内 容

① 伝統文化の継承と住民交流

地域に豊富に存在する広葉樹を有効活用する炭焼きの復活、しいたけ栽培、しめ縄門・門松作りに取り組んだ。講師を務めた高齢者と子供達が交流し、地域の伝統文化に対する理解を深めることができた。



伝統文化継承「しめ縄づくり」



高齢者と子供の交流

② 間伐材を活用した歩道整備

景観整備の一環として、集落の中を流れる河川沿いに植栽されている河津桜並木に沿って、地元の間伐材を活用した遊歩道を整備した。地域の住民交流イベントの場として活用されるようになり、恒例の桜まつりではワークショップが開催され、集落内外からも多くの家族連れが訪れるなど賑わいを見せた。



桜並木の整備



桜まつり

③ 地元産品直売所の開設

農協支所跡地を利用し、^{かつきいちば}地元の青果物や特産品を取り扱う直売所「活喜市場」を平成28年3月に開設した。地域の特産品である「茶」をはじめ、県指定無形民俗文化財の伝統芸能古田獅子舞にちなんだ「獅子米」や新鮮な旬の野菜が出品され、地元生産者の生産意欲向上と生きがいがづくりに多大な効果を上げている。さらに、野菜の栽培・販売を通じて、消費者・地域外の方々とのかげあいやコミュニケーションの場としてかけがえのないものとなっている。

成 果

地域の伝統行事の復活、景観や直売所の整備を柱に取組を展開した。

- ① 桜祭りのイベントに地元住民57人、地元外から50人以上が参加し、交流人口が増えた。
- ② 直売所では、地元の高齢者が栽培した農産物の出荷先としても重宝されており、農業を通じた地域参画の一端を担っている。



^{かつきいちば}直売所「活喜市場」

今 後 の 展 望

^{かつきいちば}「活喜市場」が開設されてから、地元生産者と消費者との交流が定期的に行われているが、開催日数が毎週1回に止まっているので、開催日数を増やし、市街地への呼びかけを行うなどして、さらに交流の場を活発にしていく必要がある。地域外の方々に足を運んで貰う機会が増えることで、地域の理解促進につながり、定住促進が期待される。

河川沿いの河津桜は、観光名所となっており、地域内外から多数の観光客を動員している。景観を保つための桜の剪定や遊歩道の清掃等、管理作業が重要となる中、作業員の高齢化と作業員不足が懸念されるので、今後、集落民全員による話し合い活動を行い、計画的な管理作業に取り組んでいく必要がある。

地 区 情 報

構成集落

中之町(1集落)

人口構成

(1) 総人口98人
(65歳以上の割合42%)

(2) 総世帯数51戸
(うち農家戸数19戸)

総土地面積:140ヘクタール

耕地面積:23ヘクタール

主要作物:米,茶,にがたけ,等

問い合わせ先

西之表市農林水産課課

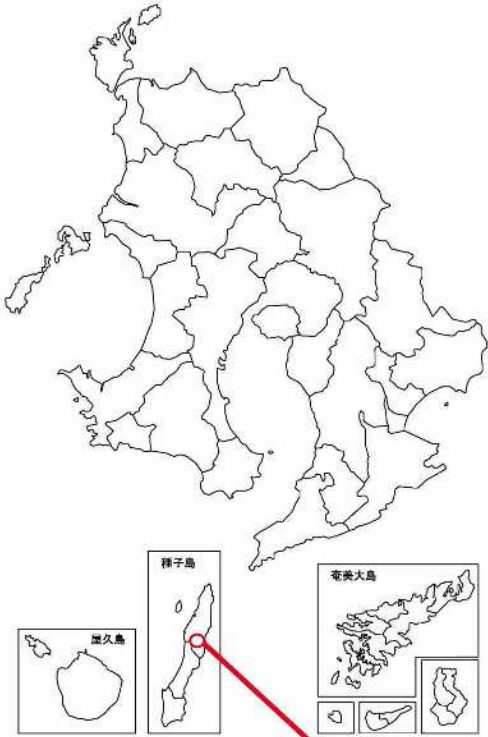
西之表市地域支援課

電話番号:0997(22)1111(代)

熊毛支庁農林水産部農政普及課

電話番号:0997(22)0044

中之町地区活動状況マップ

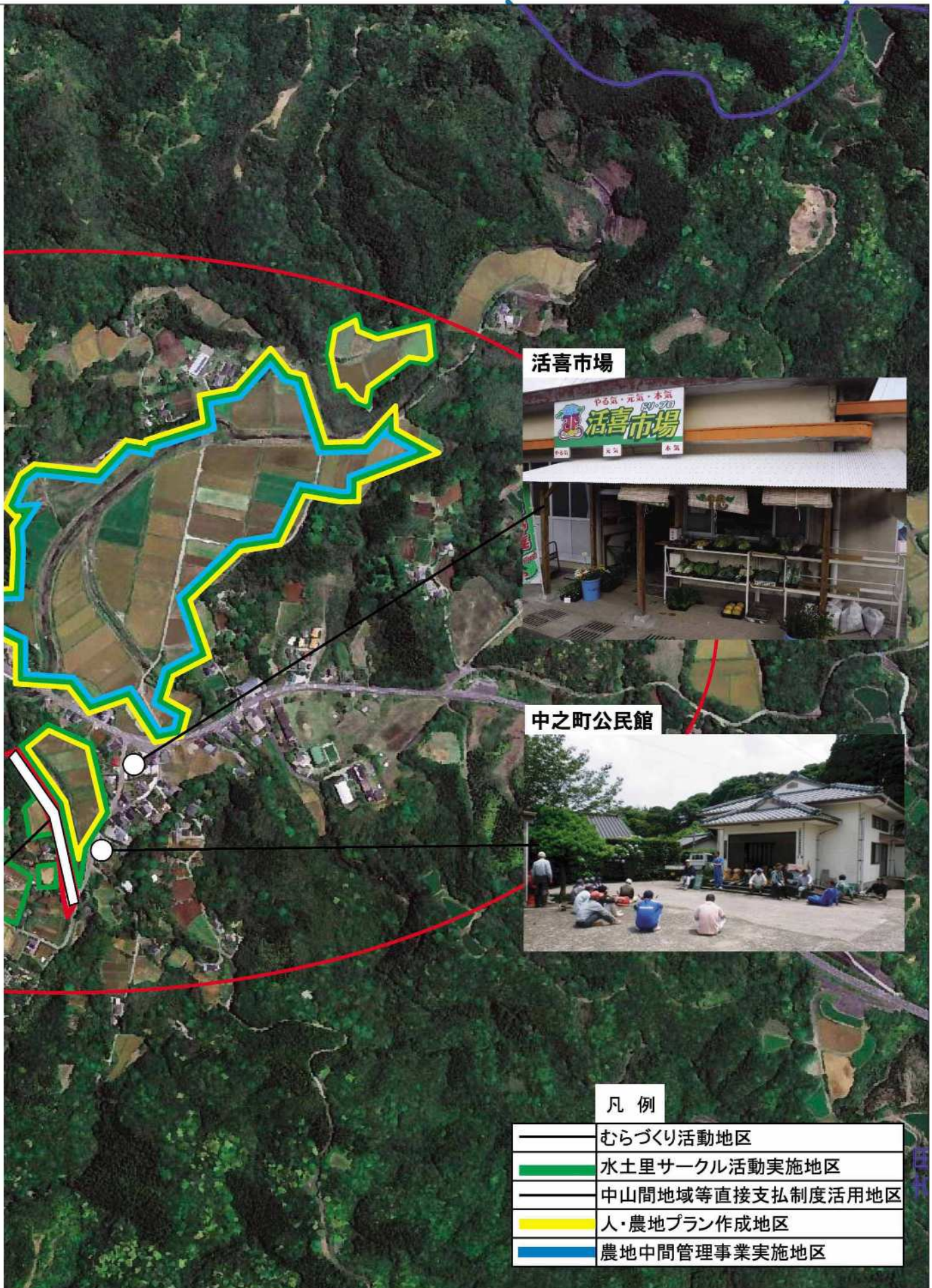


桜まつり



河津桜遊歩道





活喜市場



中之町公民館



凡例

	むらづくり活動地区
	水土里サークル活動実施地区
	中山間地域等直接支払制度活用地区
	人・農地プラン作成地区
	農地中間管理事業実施地区

集落協定で地域農業を維持 福元地区（大和村）

背 景

大和村福元地区は、村内中心部の標高200mに位置する盆地で、寒暖の差が大きいため、糖度の高い高品質のたんかんが生産される果樹産地である。

当地区では、近隣集落（名音・戸円・大棚）の生産者が果樹園を管理しているが、近年、農家の高齢化や耕作放棄地の増加により、農業の維持・継続が危ぶまれていた。

一方で、地域農業を維持するため、水土里サークル活動で農道の保全管理等を共同で行っている。今後も継続して地域農業の維持・発展に取り組むため、平成27年度に、中山間地域等直接支払制度を活用して集落協定を結び取組を始めたところである。

その中で、今後、どのような活動を展開していくか協定参加者で検討した。

活 動 内 容

話し合い活動を定期的に行い、まずは、将来の福元地区の農業についてどのような課題があるのか検討し、解決に向けてどの様に進めるか計画を立て地域ぐるみで取組を進めた。

まず、鳥獣被害防止のためのイノシシ侵入防止柵の定期点検・修繕や農道の草払い作業、共同利用できるトラクターの格納庫の設置、農作業受託に取り組んだ。

また、新規就農者に、たんかんの放任園を管理してもらうことで、就農開始時の所得を確保する体制を整えた。

そのほか、直売所「大和まほろば館」や福祉的な役割を担う地域支え合いグループと連携し、各種イベントで高齢者が生産した、たんかんなど、福元地区の農業をPRした。



福元地区協定参加者による話し合いの様子



農道の草払いの様子

成 果

福元地区は、生産者が数集落にまたがるため、地区全体で地域農業について考える機会が少なかったが、中山間地域等直接支払制度の取組を

きっかけに、話し合いを行うことにより、様々な意見が出され、解決に向けた実践計画を立てることができた。

中山間地域等直接支払交付金を活用し、地域みんなが利用しやすい場所に格納庫を設置し共同で機械を利用した効率的な農作業が可能となった。

また、共同作業としてイノシシ侵入防止柵の点検や修繕を行うことで、地域営農を考える気運が高まり、昨年度のミカンコミバエ種群発生時には、放任園の調査や除去活動を行う事で、一丸となった農地保全に取り組むことができた。

このように、今後どの様に集落の農業を維持していくかを考えて活動することで、地域全体の意識が変わってきたことが何よりの成果である。



共同利用機械等を保管する格納庫

今後の展望

たんかん農家が多い福元地区であるが、「だいこん」や「いも」などの野菜類にも力を入れ、生産・販売に取り組んでいきたい。

特に「だいこん」はイベント等の販売では、行列ができるほど人気が高いものの、農家によって栽培品種が異なるため、品種の統一や生産量の拡大に取り組む必要がある。



イベントでの福元地区農産物販売

このため、耕作放棄地を把握・解消し、農地中間管理事業を活用して確保した農地の活用を図りたい。

また、行政や直売所「大和まほろば館」と連携を図り、地域の特産品として販売・PRを積極的に行うなど、品質の良い作物が出来る地区として情報発信することで、新規就農者の確保や地域農業の維持・発展にも繋がるものとする。

地区情報

構成集落

名音, 戸円, 大棚 (3集落)

人口構成

(1) 総人口565人

(65歳以上の割合46.4%)

(2) 総世帯数354戸

(うち農家戸数 53 戸)

総土地面積: 3,815 ヘクタール

耕地面積: 42 ヘクタール

主要作物: たんかん, だいこん, いも

問い合わせ先

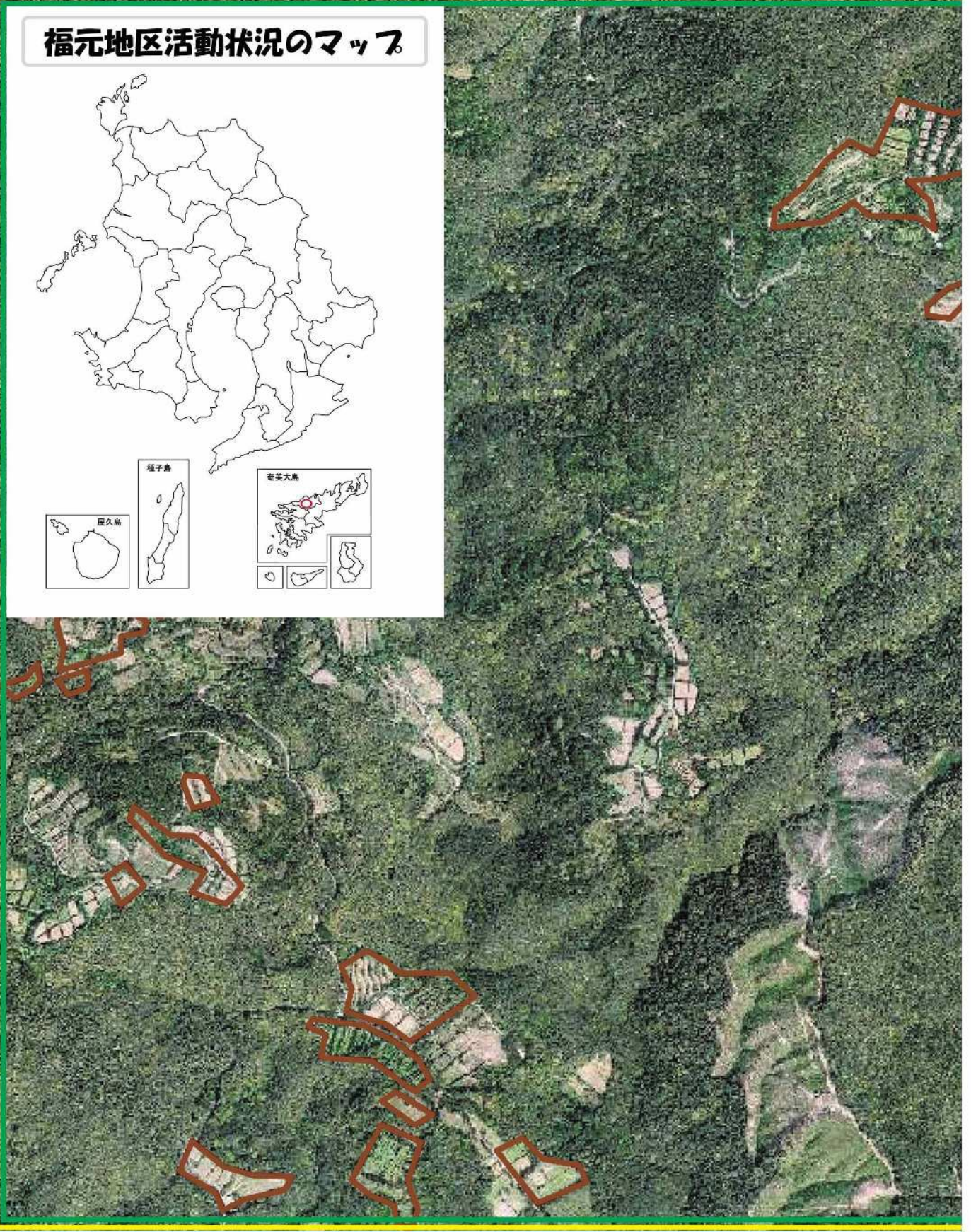
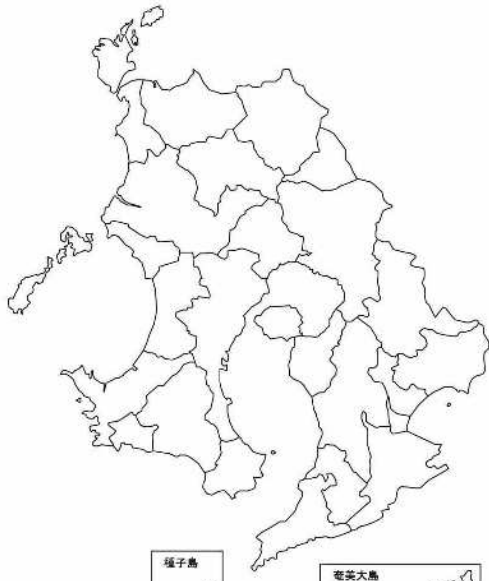
大和村産業振興課

電話番号: 0997(57)2111(代)

大島支庁農林水産部農政普及課

電話番号: 0997(57)7265

福元地区活動状況のマップ





まほろば館








連携販売店

大和村産業振興センター



活動拠点

凡例

	むらづくり活動地区
	水土里サークル活動実施地区
	中山間地域等直接支払制度活用地区
	人・農地プラン作成地区
	農地中間管理事業実施地区